

演奏しながら歌う

対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

スキル領域

言葉の理解、算数、シークエンシング、集中力、粗大運動、順番で交代する/衝動のコントロール、チームワーク、言語コミュニケーション、知識、演奏

目標

参加者は、

1. 聞き覚えのあるリズムパターンやメロディーを聞き分けることができるようになる。
2. 聴いて思い出したり視覚的に表現したりすることができる。
3. 知っている歌のリズムを選んで演奏するようになる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. リズムとメロディーについての理解が深まり、ドラムで叩いている歌を聞き分けられるようになる。
2. ドラムをたたきながら、リズムに合わせて声を出せる。

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 5



教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1人2本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン5
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個別に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を行うこと。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. まず、聞くこと、順番に交代すること、一緒に演奏することの重要性についてディスカッションしましょう。リズムと言葉について話します。音楽と言語の関係と同様に、リズムと言葉が密接な関係にあることを示しましょう。
2. 次に、ハッピーバースデーやジングルベルなど良く知られたシンプルなメロディーを歌いながらドラムを叩きます。はじめはあなたがゆっくり歌いながらドラムを叩くのを参加者に見せるのがよいでしょう。その後、参加者グループにもやってもらいます。一緒に大きな声で歌うようにしましょう。言語能力に制限のある参加者には、ハミングしたり、何らかの音を発声してついてきてもらいます。次に、また別のよく知っている歌で同じように繰り返します。
3. うまくいった後に、今度は生徒に自分の好きな歌を選ぶか、生徒が作った歌で、歌いながら演奏します。その後、グループでもそれを歌いながら演奏しましょう。
- 4.

応用編

1. CD音源を使って歌いながら演奏してみましょう。
2. 歌なしでリズムだけを叩いて生徒に「曲名あて」をしてもらいましょう。
3. 生徒にもリズムを叩いてもらい他の生徒に「曲名あて」をしてみましょう。
4. グループオリジナルの歌を作ったり、よく知っている歌の歌をグループに合わせて作り変えて替え歌をつくりましょう。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.